
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の 実施状況

令和8年2月18日

地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
全国事務局

報告事項・意見交換内容

「報告事項」

- 会合等の実施状況
- 成果物作成（R8年度）に向けた議論の実施状況

「意見交換したい内容」

- 進捗状況及び**事業枠組み**に対するご助言
(中間共有会や審査会等を経た所感共有)
- 成果の**取りまとめ、発信**に対するご助言
(成果物作成方針、その他成果の取りまとめに対して)

中間支援座談会の実施報告

- 対象：本事業参加団体（中間支援主体・活動団体）、地方事務局
- 目的、テーマ設定・プログラム構成のポイント

①中間支援機能の基本的な理解

中間支援機能を
体系的・俯瞰的に理解

多角的に中間支援機能
の理解を深める

②実践力向上・つながり強化

参加団体の関心が高いテーマで相互交流

■概要

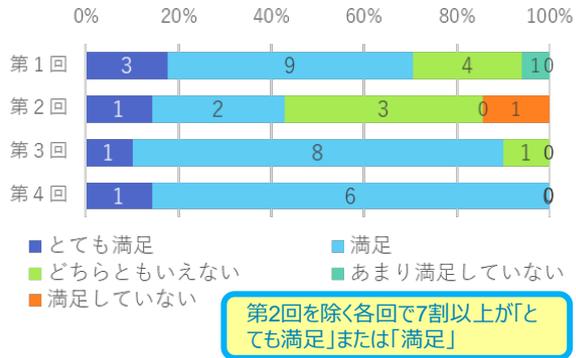
	第1回	第2回	第3回	第4回
日時	R7/6/18 (水) 13:30~15:00	R7/8/7 (木) 13:30~15:00	R7/9/3 (水) 13:30~15:00	R7/9/26 (金) 13:30~15:00
テーマ	<u>中間支援の基礎</u>	<u>地域の実践から、中間支援機能を ひもとく</u>	<u>合意形成を促すファシリテーショ ンとは？</u>	<u>環境省事業終了後を見据えた事業 化戦略について</u>
話題提供者	・地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) 江口 健介氏	・地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) 比留間 美帆氏	本年度中間支援主体より ・梅小路クリエイティブプラットフォーム ・(一社) 地域商社あきおた ・(公財) 地方経済総合研究所	過年度卒業団体より ・AMAホールディングス(株) 阿部 裕志氏 ・(株)萩・森倫館 仁科 勇人氏
ファシリテーター	—	—	・EPO北海道 溝渕 清彦氏	・EPOちゅうごく 岩見 暢浩氏 ・本年度中間支援主体 岡本 泰志氏
構成	話題提供 → 質疑応答、感想共有		事例紹介・パネルディスカッション → 全体意見交換	
申込/参加人数※	41/65	46/54	29/45	32/44
開催方法	オンライン (Zoom)			

※環境省・ERCA・登壇者の人数を除く。当日の飛び入り参加も受け付けたため、参加人数が申込人数を上回っている。

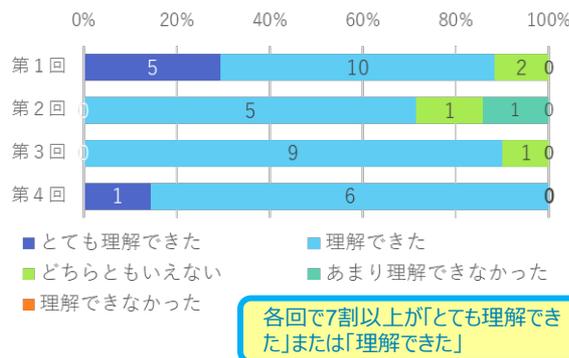
中間支援座談会の実施報告

■ 各回アンケートの結果 (※参加団体のみ集計 ※単位:人 ※第1回:n=17、第2回:n=7、第3回:n=10、第4回:n=7)

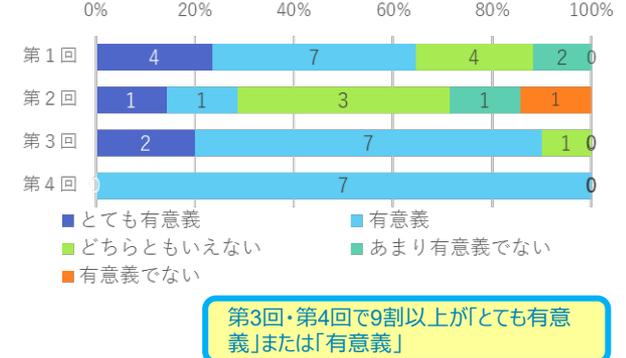
【テーマの満足度】



【テーマの理解度】



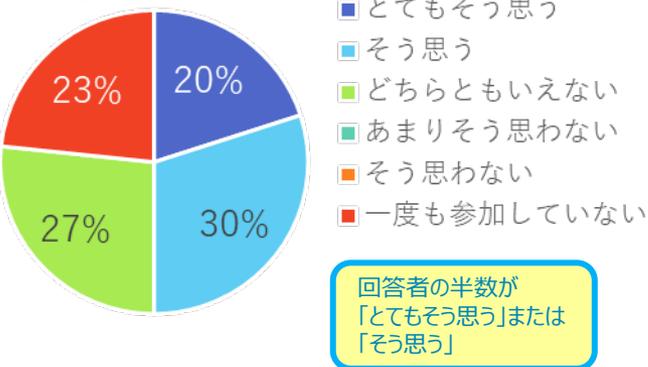
【有意義度 (中間支援機能の強化・向上につながったか)】



■ 全体アンケートの結果 (※不参加者を含め、11月に環境省が実施した事業全体アンケートより抜粋)

【座談会への参加を活動に活かしたか】

(n=30)



【どのように活かすことができたか (自由回答より抜粋)】

- 他地域の取り組み事例や事業推進上の工夫、課題への対応方法を具体的に知ることができ、自団体における関係者との役割分担の整理や、事業の進め方の見直しに活かすことができた。
- 地域で事業を興す支援をする仕組みづくりを検討していたので、具体例を学ぶことで検討が進むきっかけとなった。
- 中間支援は、「プロセス全体を俯瞰し変革を起こすことを主として、多様な主体間で協業を支援すること」という定義を共有いただいたことで、支援方法の迷いが解消された。
- また、ファシリテーションの場づくりや立ち振る舞いにおいて、聞くことに加えて「可視化する」「観察することの必要性を学び、以降のミーティング・ファシリテーションにおいて意識的に取り入れている。
- 中間支援団体として、やっていいことややってはいけないことがあるのか分からないために、心が苦しい感じだったのが、話を聞いて、気持ちが軽くなって、行動しやすくなった。

■ まとめ

- 中間支援機能についての理解が深まり、今後の活動の方向性や進め方が明確になった。
- 同じ共生圏事業に参加する団体同士で具体的な失敗談や課題解決事例を共有することで実践的なヒントが得られた。

中間支援ギャザリングの開催概要

日時：Day 1 2026年3月5日（木）14:00～17:30（18:00～20:00 参加者交流会）

Day 2 2026年3月6日（金）9:30～12:30

場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

方法：対面

主な対象：地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の関係者（中間支援主体、活動団体（一部）、事務局、有識者等）

開催目的：①地域循環共生圏づくりを支援する中間支援主体同士や、地域づくりを応援したい人達の交流・取組の相互参照の機会とし、共生圏づくりのネットワークを強化する

②地域循環共生圏づくりを支える中間支援体制を構築するために必要な中間支援機能について、実体験をもとに考える機会とする

Day 1 地域循環共生圏づくりの取組発信 中間支援の実践ノウハウの共有

- **ポスター発表**エリアを設け、各地域の共生圏づくりの取組を共有・発信できる場をつくる
- 中間支援主体による**トークセッション**を行い、各地域で実践した中間支援のノウハウ及び課題を共有する

トークセッションテーマ

①「目に見える困りごと」を解決する、中間支援の技と工夫

（課題解決、資源可視化、資源連結）

②「目に見えない土台」を作る、中間支援の技と工夫

（寄り添い、場づくり、学び、協働、プロセス支援）

③中間支援のあるべき補完関係

※共生圏の輪を広げて行くことを意識し、今後つながりたい方、地域づくり・共生圏づくり・中間支援に関心ある方に個別にお声がけもする予定（招待制）

Day 2 実践してきた中間支援の振り返り 今後必要な中間支援機能・体制の検討

- 年度当初の獲得目標と現時点の達成状況を比較し、実践してきた中間支援、獲得した中間支援機能を振り返る
- 今後高めたい中間支援機能について考える
- 共生圏づくりを支援する中間支援体制を貢献するためにどのような仕組みが必要か考える

※中間支援主体の内省の時間、共感を持てる仲間との共有の時間とするため、本事業の関係者のみの場とする

地域循環共生圏づくり支援体制構築事業のロジックモデル

インプット

(環境省が提供すること)

中間支援主体に対する
伴走

活動資金の提供

ネットワーキングと
学び合いの機会提供
(キックオフ、中間共有会等)

学習や情報発信の
機会提供
(フォーラム、SNS等)

各種ツールの提供

アウトプット

(一緒に生み出したいこと)

① 地域循環共生圏のモデル事例
-ローカルSDGs事業の創出
-地域プラットフォームの構築

② 地域循環共生圏づくりにおいて
有効な中間支援機能モデル

③ 地域循環共生圏の考え方を
踏まえた中間支援の担い手と
そのコミュニティ

短期～中期アウトカム

地域循環共生圏づくりに
取り組む地域が増える

地域循環共生圏を理解した、
中間支援機能を有する組
織・個人が全国に増える

自立を目指す地域同士が支
え合うネットワークを構築
する

地域循環共生圏の創造

今後の成果取りまとめ方向性（案）

ロジックモデルのアウトプット	成果とりまとめ（R8年度中目標）の方向性
<p>①</p> <p>地域循環共生圏のモデル事例 -地域プラットフォームの構築 -ローカルSDGs事業の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共生圏づくりの考え方をインプットしたことにより、地域づくりが加速した理由の<u>言語化</u> ローカルSDGs事業を生み出し続ける<u>仕組みのモデル化</u> 「6つの資本」を援用し、ローカルSDGsを資本統合と好循環で評価
<p>②</p> <p>地域循環共生圏づくりにおいて有効な中間支援機能モデル</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援の4つの機能（変革促進、プロセス支援、資源連結、問題解決提示）のフレームを援用し、<u>地域で実践した中間支援</u>と、それによる<u>取組の成果（効果・生まれた変化）・プロセスを整理</u>
<p>③</p> <p>地域循環共生圏の考え方を踏まえた中間支援の担い手とそのコミュニティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援の担い手育成の<u>マニュアル化</u> 卒業団体も含めた全国・各地方での中間支援コミュニティの運用

これまでの成果取りまとめに関連する様々なご意見

【有識者会議（7月）】

- **環境省の事業だからこそできる特性**（環境・社会・経済の統合など）を明確に打ち出すべき。
- 中間支援機能について、チェンジ・エージェント機能の4つの機能だけで足りるのか、他にないのかという仮説を入れながら整理をしていけるとよい。
- 支援事業のプロセスだけでなく、**中間支援主体自体の組織体制や担い手（個人）がどう成長したか**という視点が不可欠である。「人材」「組織基盤」「地域全体の連携体制」の3つの階層で分けて整理できると良い。
- 成果だけでなく、**現状の課題や「できていないこと」を自覚・認識する**ことが、今後の領域を豊かにするために重要である。

【作業部会（12月）】 ※主に成果物に関する議論

- そもそも、地域循環共生圏とは何か、その魅力や意義、使っている用語を**分かりやすく解説する**必要がある。
- 中間支援のハウツー本では読まれない。「地域」を主語にして、**共生圏づくりの姿（事例）とその舞台裏（中間支援の役割・機能）を並行して示す**形が良いのではないかと。
- 成功事例集ではなく、プロセスデザインの技術や、支援機能のマッピング、さらには**参考になる「しくじり事例」のケーススタディ**も盛り込むとよいのではないかと。

地域循環共生圏づくり支援体制事業 成果物作成方針

目的：

地域循環共生圏づくりに取り組む主体に対して**中間支援を担える人材や組織を増やし、効果的に地域循環共生圏の創造を推進するために**、本事業で得られた成果を取りまとめ、今後の支援体制の強化に貢献する。

成果物に含めたい要素：

- ① 共生圏づくりに携わる中間支援の役割と、地域で機能した“中間支援機能”について
- ② 地域循環共生圏とは何か、その魅力や意義について（わかりやすく）
- ③ これまで各地域で取り組んできた地域循環共生圏づくりの事例（R元～ PF事業も含む）
- ④ 今後の支援体制のビジョン、仕組 など

ターゲット（この情報を届けたい相手）：

- ・ 地域のコーディネーター的人材
- ・ 自然資本を基礎とした地域づくりに関わる主体
- ・ 共生圏づくりに新しく関わるようになった人、他省庁の地域づくり事業の実践者など

媒体：冊子（A4、カラー、40ページ程度）＋共生圏HPへのWeb公開

活用方法：※手渡しをしながら本資料を活用していくことを重視している

- ・ R8事業成果共有会の機会（共生圏づくり、中間支援の重要性の発信等に活用）
- ・ 共生圏づくりに取り組む人への導入教材として
- ・ 地域づくりを実践している人たちに、自然資本をベースとした取組を紹介する際

地域循環共生圏づくり支援体制事業 成果物作成方針

冊子の作り方：

- 冊子は大きく3つの章と巻頭・巻末で構成する。
- 基本的には、各地方EPOとGEOCが執筆を担当する。章ごとに監修者に入っていたく。

章ごとにまとめる要素のイメージ（案）

これまでの事例	分析	今後について
<p>共生圏づくりに貢献した中間支援機能実践事例 監修：鬼沢 良子 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 共生圏づくりとその舞台裏（中間支援）を併記で事例を整理 6つの資本も意識しながら事例を整理 中間支援によって生じた活動の変化（プロセス） 	<p>「地域循環共生圏」「中間支援機能」とはそれらの関係性とは 監修：佐藤 真久 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏、中間支援機能に関する分析、理論、意味づけ “厄介な問題”に取組んでいる前提 “地域”“循環”“自立分散”などの言葉の定義、用語の説明 中間支援機能の分類、得意・不得意 	<p>目指すべき共生圏づくり支援体制とは 監修：島岡 未来子 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 複層的な中間支援機能、組織の存在 ネットワークとして繋がることの重要性 中間支援組織間の連動・補完の仕組みづくり 共生圏の概念を広げられる先（他政策など）との連携・連動

配慮事項：

- 過去の成果物と連動させる（政策協働ガイドブック、地域循環共生圏づくりの手引き など）
- 既存の資料・動画など、これまでの成果の情報を掲載・活用する（共生圏事業だけに限らない）
- 冊子の作成を通じて、共生圏の成果を取りまとめるだけでなく、共生圏事業に長く関わってきたEPOの知見の蓄積と知見を共有する機会として活用する
- 作成した冊子はただ「配布」するのではなく、「普及」に活かしていく。関係主体の巻き込みと場づくりの現場で活用していく（ただの報告書にはしない）

成果物作成に向けた作業スケジュール（R8年度予定）

- 成果取りまとめの全体方針、章ごとに記載する項目などの方針に関する議論・すり合わせは、事業検討会議及び作業部会で行う。
- 各章の原稿執筆作業は、執筆チームごとに作業MTGを実施しながら進める。

作業スケジュール

